

GYM LABO -学生による家具等の製作-

正会員 ○村岡武蔵*
正会員 宅野渉*
正会員 佐久間治**
正会員 伊東啓太郎***
正会員 石塚直登****
正会員 須藤朋美****

* 九州工業大学大学院 博士前期課程
** 九州女子大学 教授
*** 九州工業大学 教授
**** 九州工業大学 助教

GYM LABO

-Production of the furniture by the students-

○MURAOKA Takezo*
Takuno Wataru
SAKUMA Osamu**
ITO Keitaro***
ISHIZUKA Naoto****
SUDO Tomomi****

* Graduate Student, Graduate School, Kyushu Institute of Technology
** Professor, Kyushu Women's University
*** Professor, Kyushu Institute of Technology
**** Assistant Professor, Kyushu Institute of Technology

■ はじめに

「GYM LABO」は九州工業大学旧体育館の改修によりできたコワーキングスペースである。本プロジェクトは2018年5月に始動し、2022年5月にオープンを迎えたが、そのうち館内家具の一部、館内サイン、フロアマップ等のデザイン・製作を九州工業大学建築デザイン研究室の学生が担当した。以下、それらのデザインと製作について述べる。

■ スツールの製作

GYM LABO は勉強や交流、休憩など様々な使われ方をされることが想定されている。そのため、単なるツールとしての機能だけでなく、他の用途でも使える多機能なツールを目指した。多くのスタディを重ねた結果、ボックス型の形状を採用し、座面となる上部を取り外すことで、ツール内を収納として使えたり、積み重ねたりすることができる。また、側面には細長い穴をあけており、ジョイントを用いてツール同士を連結させることもできる。大小二つのサイズを用意しており、実際に、イベント時のコード類収納、展示台、物置など、様々な用途で使用されている。(図1)

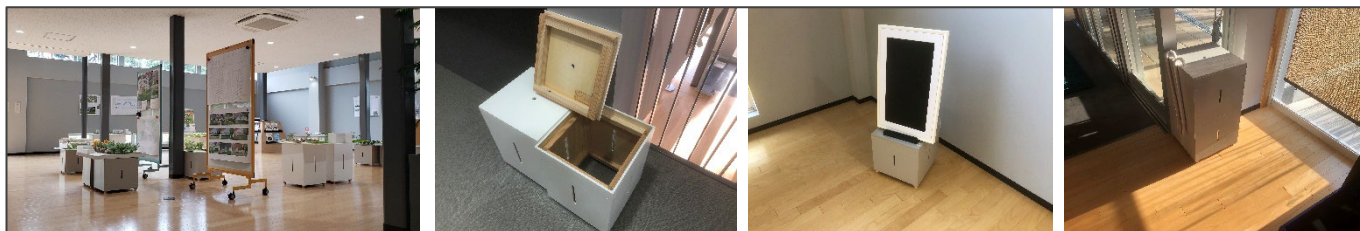


図1. ツール

■ フロントカウンターのデザイン改修

フロントカウンターはイチからの製作ではなく、実際に出来上がっていたもの(図2)を、エントランスで目を引くようなより良いものとするためのデザイン改修を行った。材料費の制約や学生で施工することを考慮し、ルーバーを用いたデザインを採用した。GYM LABO の設計には、旧体育館の平面形状が黄金比に沿って作られていたことから、随所に黄金比が使われている。今回のフロントカウンターでも、黄金比をもとに、フィボナッチ数列を用いてルーバーの長さを決定した。模型や3DCG等で全体の見え方を確認しながら初期値を変更し、最終的に波



図2. 施工前

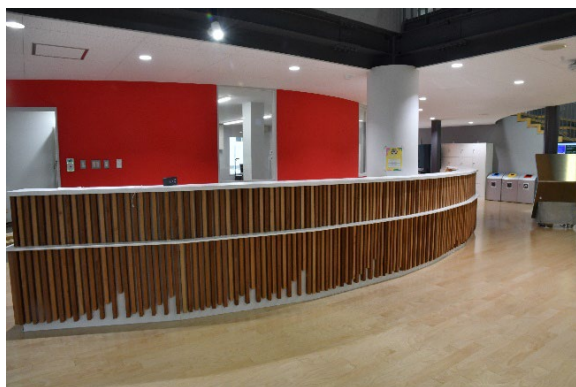


図3. 施工後



図4. 使用風景

所在地：福岡県北九州市戸畑区仙水町 1-1
主な用途：コワーキングスペース
建築面積：1,289.43m²
延床面積：1,955.42m²
キーワード：スツール・カウンター・サイン・フロアマップ・黄金比

Location : 1-1, Sensui-cho, Tobata-ku, Kitakyushu, Fukuoka
Main Use : coworking space
Building Floor Area : 1,289.43 m²
Total Floor Area : 1,955.42 m²
Keywords : stool, counter, sign, floor map, golden ratio

状のデザインに仕上げた。また、受付時にちょっとした物置として使えるような小カウンターを中段に付け加え、見た目だけでなく、機能面での改修も行った。(図3・図4)

■ 館内サインの計画及び製作

はじめに平面図をもとに、必要なサインと設置箇所、個数等を計画した。その結果、その場所自体を示す室名サインと目的の場所への道標となる誘導サインの二つをデザイン・製作した。GYM LABO には一つ一つ特徴のある空間があるため、それらをピクトグラムで表現し、また、フロントカウンターのルーバー同様、室名サインの外枠と誘導サインの矢印には黄金比を用いている。形状のデザインの決定後、その材質、色、線の太さ、文字の大きさなどは様々なサンプルを製作し、現場で実際の見やすさを確認することで決定させた。設置する壁の色や照明の当たり方、施工性を考慮し、室名サインには木材を、誘導サインにはカッティングシートを用いている。(図5・図6)



図5. 室名サイン

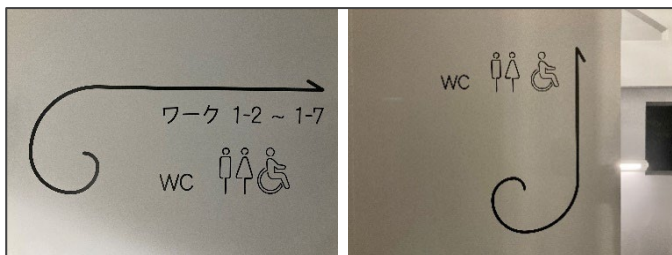


図6. 室名サイン

■ フロアマップの製作

案内板の本体自体は機械知能工学科、コンクリート研究室の協力のもと、すでに出来上がっており(図7)、その上に取り付けるフロアマップのデザイン・製作を行った。背面の金属板を活かすことと、「特徴のある空間が多数存在する」「オープンな空間が多い」といった GYM LABO 自体の空間の魅力を、フロアマップを通して感じられるデザインにすることを意識した。ベースは白のカッティングシートを使用しているが、壁や吹き抜け空間など随所でカッティングシートを切り抜き、背面の金属部分を見せることで表現している。また、個室部分や「GYMLABO」のロゴ、室名などの情報表記部分には厚みのある木材を使用することで凹凸感のある立体的なデザインに仕上げた。色彩は、家具や館内の雰囲気

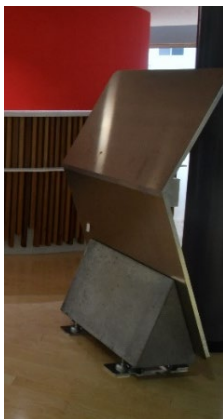


図7. 施工前

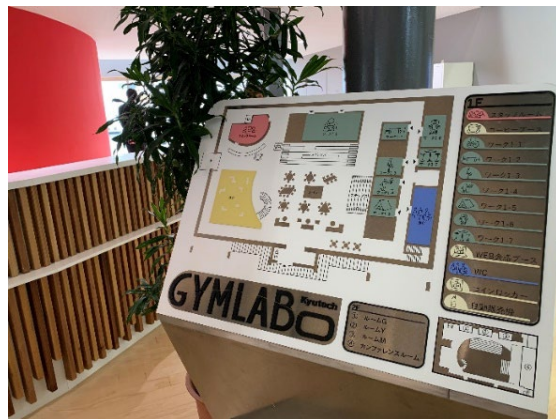


図8. 施工後 (1階)

に合わせてデザインしている。(図8)

■ 終わりに

今回行ったデザインは普段、学生として課題やコンペ等で行っている設計とは異なるデザインの種類で、デザインの仕方やデザイン自体の良し悪しが分からず、苦勞を要した。しかし、分からないからこそ、形状、素材、色、大きさなどあらゆる検討段階で様々なスタディを重ね、様々な人の意見を聞いた。結果、スタディの大切さやデザインの難しさを再確認でき、デザインのアプローチの幅を広げられたと思っている。また、施工まで担当し、設計の細部まで考えたことで、作業工程の決定や人員配置の難しさも経験できた。

本プロジェクトを通して、建築を見るとときに、内部のデザインやどのようにして施工が行われているかなど、今まで見ていなかったところにも目を向けるようになり、建築をより多角的に見られるようになった。この経験は今後の設計でより多面的な検討を行うことに繋がると考えており、実践的なプロジェクトへの参加は非常に有意義だと感じた。